

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
1	22ページ	松尾芭蕉に代表される伊賀に生まれ育った先賢とその功績に目を向けることは、わがまちに対する誇り（シビックプライド）を抱くことにつながります。※松尾芭蕉押し如何なものでしょうか？私は誇りも感じませんし興味も湧かないですね。俳句のまちづくりの推進はあくまでも一部と感じます。	芭蕉をはじめとする多様な伊賀の歴史文化に触れ、地域への愛着と誇りを育むことをめざしています。	－
2	全体的に	全体的に項目が多い気がする	実効性のある文化振興策を推進するため必要な事項を選定していますので、ご理解をお願いします。	－
3	19ページ	次世代のアーティストや担い手の活動環境の整備のためには「経済的支援」についても言及した方が良いと考える。伝統文化を継承するためにアーティストが活躍出来る場を増やす一方で活躍に応じた報酬や育成期間中の支援がないと、意欲はあるのに継続しないと 言った結果も考えられる。 将来的に若いアーティストからさらなる次世代の子供たちにまで芸術文化を浸透させていくには「芸術が楽しい」だけではなく「芸術で楽しく面白く生きていける」が感じられる、あるいは保護者に理解される活動であるとなお良いのではと思います。	アーティスト同士の連携や活動の場を増やすことは非常に重要であり、今後も力を入れていきます。また、アーティストの支援においても、関係団体と情報を共有しながら取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。	－
4	全て	子供の未来と伊賀市はいつも言っていますが、それは現在産まれてる子だけの事で、子供を安心して産める環境を整えないと子供自体いなくなるのでは	「子育て」は「ひとを育てること」であり、大人になるまで続きます。伊賀市こども計画に基づき、子どもを安心して出産できる環境を整え、一人ひとりが自分らしく社会生活を送ることができるよう、ライフステージを通じて切れ目ない支援に取り組みます。	－
5		飲食店をもっと増やしてほしい	ご意見として賜ります。	－
6	第4章	7つの基本方針は多岐にわたり魅力的ですが、5年間の優先順位が分かりにくいです。限られた財源で何を最優先に進めるか示し、住民参加型の文化振興を具体的にしてほしいです。	事業実施において優先順位は重要ですが、目的を達成するための文化芸術に関わる主体や役割を明記しています。なお、当プランは、市民、行政、公益文化団体などが取り組むものです。（第1章参照してください。）	－
7	第4章	基本理念は賛同しますが、各施策が『推進』『拡充』など表現があいまいで、実施時期・対象・予算・成果指標がよくわかりません。	6番の回答を参照してください。	－
8	32ページ	評価指標は設定されていますが、目標値や達成基準が分かりにくいです。参加者数だけでなく満足度や継続率も含め、PDCAサイクルを回せる具体的な数値目標を追加し、計画の実効性を高めてください。	これまでから事業ごとに数値目標を定め進捗管理を行っています。ご意見は参考とさせていただきます。	－

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
9	16ページ 子どもたちが文化芸術を体感できる機会の拡充について	子ども達が様々な文化芸術を体感する機会を提供してくださることは、大変有り難いです。しかし、体感となると興味のない子どもは参加しません。 体感に加えて、体験する事をプラスすると興味が出てくるかもしれない。 また、学校で体感、体感した事と 市が提供する機会とを連携した方が次に繋がると思います。 学校で経験し興味をもち、その後市でも提供すると子供は連続して体験をする事ができ、一時的な興味ではなく未来に続くものへと繋がる可能性は高くなると思います。	学校や地域と連携し、子どもたちが文化芸術を体感・体験できる機会の提供を引き続き推進します。文化芸術の感動や喜びを伝えることで、子どもたちの想像力や表現力を育むことを重視し、興味の継続や深まりにつなげていきます。	—
10	29ページ	子供未来プロジェクトについて 以前より学校での講演会などが増え芸術に触れる機会が多くなったと感じる。各学校によって芸術に触れる回数の違いがあるのは残念に思う。	関係課や関係団体と連携し、文化芸術に触れる機会の創出に積極的に取り組んでいきます。	—
11	30ページ	伊賀鉄道ギャラリー列車での障がい者の社会参加につながる作品展について 町中で車椅子で移動すること自体、踏切の横断、歩道の段差などで不自由や危険を感じる事も多く、電車のイベントだと車椅子に乗っていたり足にハンデがある人はなかなか電車となると行きづらいです。ハイトピア周辺での車椅子移動も歩道での段差、車椅子の前輪が踏切の溝に引っかかったり、点字ブロックの剥がれ等、まだまだ壁が大きいです。	伊賀市障がい者福祉計画に基づき、障がいのある人が、安心して社会参加できるよう、また、誰もが自分らしく暮らせるまちになるよう取り組みます。	—
12	31ページ	芭蕉祭やその他イベントについて 伊賀・名張の個人事業者や又は個人でのフリーマーケットなどを土日祝の休みを使い、夜はお城のライトアップ等、食、縁日、ハンドメイドなどのイベントを企画してほしいです。その中で芭蕉や城の文化に触れることが出来たらと思います。あまり、市外地にすんでいるとなかなかお城に行くことがないので、観光含め伊賀名張に住んでいる人もお城の近くで楽しめる天神祭以外の大きなイベントがあればと思います。	ご意見は参考とさせていただきます。	—
13	32ページ	指標2 誰もが文化に親しむ 障がい者のいる家庭で文化・芸術の取り組みに参加すること自体難しさを感じます。 周りの視線や車椅子の利用が難しい所など、障がいに対する周りの理解がまだまだ足りないように思います。	伊賀市障がい者福祉計画に基づき、障がいのある人自身を含めた市民参加によって柔軟、多彩に展開される地域福祉活動との効果的な協働を進め、安心して参加できる環境を整えます。	—
14	34ページ	障がい者の社会参加につながる作品展 家族や関係者が行くことが多く、もっと色々な人を集め障がいを持ってる人への偏見や見る目等が変わってもらえるような理解を広められるような展示会にしてほしい	13番の回答欄を参照してください。	—

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
15		地元愛を育み、子供世代、孫世代が住み続けたいと思われるような繋がりを意識した文化活動、伝統継承を可能にするような参加型の企画開催を是非にお願いしたい。聞くだけ、見るだけではなく入口のキッカケになり発信する側の人間が生まれていくようなぶらん、実行を願います。	ご意見は参考にさせていただきます。	—
16	22ページ	施策の方向性について、郷土の文化を大切にする、先人の伝統文化を知り、守り、つなげていくことは大事であるとする。その中で松尾芭蕉翁を活用することは大事であるとするが、郷土の歴史を小学校、中学校でどの程度まで教えているのかを明示してほしいものである。郷土の歴史を知ったうえで、その文化をどう守り、活用していくかが大事ではないかと思うからである。	子どもたちが調べる、考えるきっかけとなり、郷土を学ぶための伊賀市郷土教育教材を作成しています。伊賀の歴史を時代別にまとめ、また伊賀の特産物、文化、地勢について写真や画像を取り入れて授業で活用しています。なお、小学3年生から中学3年生を対象としています。	—
17	32ページ	評価指標の設定について。指標①子どもたちのために この中で、過去1年間に文化芸術に触れ親しんだ子どもの割合を100パーセントにするというものであろう。子どもたちが様々な文化芸術に親しむことは有益なことではあるが、これお100パーセントにする意味をご教示願いたい。家庭教育、学校教育、地域教育の連動があって、はじめて子どもたちが文化芸術に親しむようになっていくものではないか。100パーセントになったから、これは伊賀市の文化芸術施策が成功したものだと考えておられるのだろうか。	こども基本法において、全ての子どもは、平等に教育を受けられることや、社会のさまざまな活動に参加することなどが明記されています。ご意見のとおり、家庭、学校、地域、行政が連携しあって、すべての子どもに文化芸術に触れることができるよう取り組むことを指標としたものです。	—
18		伊賀市文化振興プランをざっくり読みました。細かく記載されていましたが分かりにくく私の意見を書きたいのですが伊賀市の観光については、勿体無いの一言でせっきくの忍者やお城がいかせていない。こんな文化遺産世界的にも通用出来そうなものなのになんとかならないのでしょうか？あと親子共に文化に触れる機会を作りたいのであればお金を出してでも参加したくなるような魅力のある行事が必要かと思います。私が子育てしていた時には全く無かったです。また子育てが終わって時間が出来たのに参加したくなるような行事もなければ学ぶ場も無いです。学びの場が土日の出かけやすい日程であれば参加したいのですが無いです。あと私のリサーチ不足かもしれませんが情報の発信が無いので、せっきく何かあったとしても知る由がないです。昔から思っていましたPR広報にもっと予算を使ってひとつでも全国的にニュースになるようなインパクトのある何かを伊賀市から発信して頂きたいです。	これまでも情報発信は市の重要な課題と認識しております。今後も引き続き、より効果的な情報発信に努めます。	—

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
19	8ページ	「会場に赴くなどして、文化芸術を鑑賞した人の割合（参画度）は 38％であり」とのアンケート結果が深掘りされていないように思う。市民と行政との間にいま求められる文化芸術について認識のずれがあるのか、市民が一方的に壁を感じてしまうような施策であるのか、あるいは、会場に赴くというスタイルがそもそも市民のライフスタイルに合わなくなっているのか、わからない。個人的にはネット技術も発達してきているので、アウトリーチの方法のバリエーションを増やしてほしい。	アンケート調査の内容については、今後、より詳細に精査し、必要に応じて見直しを行います。また、アウトリーチの方法については多様な手法を取り入れることが重要だと認識しています。一方で、文化施設ならではの感動や安らぎといった効果も提供できるよう、会場参加と併せて、さまざまな取り組みを進めます。	—
20	23ページ	「郷土の文化を知り市民の財産として分かち合う」とあるが、郷土文化については未だ旧市町村の垣根を越えた情報配信の場が整備されていないように思う。市のホームページなどで各地域の文化財や行事を一括でまとめられたページを整備してほしい。	情報発信のあり方においては、関係課と共有します。	—
21	24ページ	「新しい文化芸術の創造」とあるが、何を選ぶかを市民に問う機会を設けてほしい。会場に足を運ばない、中学生以上は文化芸術に触れる機会が少ない現状で、行政の視点から選ばれたハイレベルでニッチな分野の文化芸術が市民に文化芸術の創造性を想起させるのかは甚だ疑問である。	新しい文化芸術の創造は、みんなで創り上げていくものだと考えています。市民の皆さまが文化芸術の感動や喜び、新しい発見を身近に感じられるよう、多様な企画を進めていきます。	—
22	28ページ	「文化芸術を中心としてさまざまな立場の人が参画、活動する場の創設」に関連して、今伊賀市に在住している外国籍の方々の文化を知るワークショップを様々な場所で行ってほしい。私たち受け入れる側は、そこから特有の価値観を知ることができ、理解を深められると思われるし、受け入れられる側も教えるという立場に立つことで対等の関係であるという意識を持つことができるのではないだろうか。また、外国籍の方々同士の交流の場にもなれば尚良い。	意見交換会は、さまざまな人の考えを知るために重要な場です。 すでに取り組んでいる地域もあり、市としても引き続き注力します。 ご意見は参考とさせていただきます。	—
23	29ページ	「子どもたちの 10 年後 20 年後の将来のために先行投資する【子ども未来プロジェクト】」とあるが、10年・20年前と比べて子どもの教育費に関わる家庭の負担は大きくなってしまった。楽器や用具の貸し出し制度や放課後の教室を利用した無料の教室の開催など、より具体的な経済的助成案を検討してほしい。	社会情勢の変化を受け止め、現状把握や課題などを市で共有します。ご意見は参考とさせていただきます。	—
24	34～38ページ	現在行っている事業を羅列して、それに基本方針を割り付けた印象。 全体的に総花的で、エッジの立った事業がないように感じる。	ご意見は参考にさせていただきます。	—
25	32ページ	目標の設定は必要なことと思いますが、数値目標は馴染まないと思います。	数値目標は、目標を達成するための戦略的なツールとして、計画の進捗状況を把握する目安として設定しています。	—

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
26	22ページ	・郷土の伝統的な祭礼や行事などの保存と継承について 昨年で在所の宮祭りは後継者不足により休止（中止）になりました。従来の行事をそのまま踏襲することも重要ですが、少し形を変えても存続できるように行政のサポート・アドバイスがあると良いと思います。	行事に携わる地域や関係者などと連携を図ります。	—
27	7ページ 課題の整理	課題の整理により、実際の感想がわかり、今後のやるべき方向がみえて、良かったと思う。	ご意見として賜ります。	—
28	10 ページ 基本方針に基づいた施策の推進	7項目の基本方針が、市民文化政策と、年文化政策にわけられていて、分かり安いと思う。	ご意見として賜ります。	—
29	34 ページ 基本方針に基づく 主な事業	思っていたよりも沢山あったので驚きました。身近な場所で参加できそうな催し物がわかれば、参加する方もいるかと思います。誰もが、参加しやすい方法があれば良いのですが。身近な所では、学校を通してみるのが良いかと思います。	学校や地区市民センターなど身近な施設を活用することを推進し、高齢者や子どもなどが参加しやすい方法を提供し、多くの人が気軽に催し物に関われるようにすることを目指します。	—
30	1～3ページ	1ページから3ページを読んだ段階で、文化の重要性について述べられていると感じましたが、専門的な用語や難しい表現が多く、理解しづらいと感じました。そのため、以降のページについては最後まで読み進めることが難しく、全体を把握することができませんでした。また、新しく関わる住民や異文化の住民による文化や芸術の表現と、地域に長く関わっている方々による表現とでは、それぞれ視点や背景が異なると感じます。そうした違いが伝わるように、それぞれの良さや考え方が感じ取れる展示や発信の工夫があると、より理解が深まるのではないかと思います。一般の方にも伝わるよう、より分かりやすい表現や構成にしていただけると良いと思います。	ご意見として賜ります。	—
31	2 ページ 12ページ	文化ホールについて誰も取り残さないという社会包摂を実現するためのプラットフォームとしての役割は、具体的には伊賀市文化会館のことを指しているのでしょうか？いつも思うのですが、中小ホールでいえば、青山ホールしかなくて、子どものピアノ発表会の時には遠隔地であるため毎年行くのが遠いなぁと思っています。音楽堂の活性化とはハード面の充実もふくまれないのでしょうか？	プランに記載をしているのは一部の施設です。他の施設を含め施設の有効活用を図ります。	—
32	34ページ～	主な事業内容については、実際に参加をした事がありますし、また、学校の配布物から認知されていることであり、充実しており満足しております。引き続き魅力のある事業計画をしていってもらえたら、と思いました。	ご意見は参考にさせていただきます。	—
33	12ページ	新図書館が開館したので、ロビーでの楽器の演奏など開催する。	ご意見は参考にさせていただきます。	—
34	12ページ	文化芸術のまちづくり ぶんとさんでの、コンサートなどは、とてもいいと思うし、市民センターでの、趣味の活動も多きたいへん役にたっていてうれしく 思っています。でも、阿山市民センターなど、いまだ使用できず、なんとかしてほしいと思っています。観光都市で、美術館がないのも、おかしいと思います、長野など、東山魁夷館が素晴らしく伊賀も元永さんなど、文化人がたくさんいるのに、もったいないと思います	文化施設のあり方については、あやま文化センターを含む市内全域の文化施設のあり方を検討していく予定です。	—

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
35	29ページ	子ども未来プロジェクトとして、小さい頃から芸術にふれるのは、とてもいいと思いますが、その子供が減ってきている伊賀です。子育て支援とあって、なんでも無償化にしていることには、反対です。まず、結婚しない若者が増えています。なぜか聞いてみると出会いがないとのこと、結婚する気がないのではないのです。昔のように、おせっかいな、人たちが、いないからです。まず、そこからではないですか？	出会いや結婚に対する考え方は、個人の自由であり、個人の生き方や価値観によるものと考えます。	—
36	12ページ 21ページ	【2026年は「旧上野市庁舎SAKAKURA BASE」に多くの人が本と出会い、人が出会い集いつながり、交流する新しい図書館を開館します。これらの施設は伊賀の歴史と文化を未来へ伝える役割を担い、市民とともに成長することを目指しています。】 上記のようにありますが、駐車場が有料の為、交流の場と利用する以前にそもそも施設として利用する敷居が高くなっています。せめて、図書館で飲食や買い物をした利用者には時間の制限をかけない駐車場の無料券を配布する等の案を検討していただきたいです。 近代建築として高い評価をされている旧上野市庁舎を活用し残したことは意義があると思いますが、坂倉準三を知っている一部の建築に興味のある人にしか高い評価をされていませんので、坂倉準三の残したほかの施設（鎌倉にある美術館等）とコラボする等、観光資源としてアピールしてみてもいいと思います。	ご意見は参考にさせていただきます。	—
37	25ページ	・新たな文化芸術の誘導（移入）による都市の新たな顔づくり ・観光や産業の振興につながる文化財施設の有効活用 上記の2点について、芭蕉や忍者などを題材にした漫画やアニメは複数あるかと思うので、上野城などの施設を使ってコラボやイベントを開催してはどうかと思います。漫画やアニメ、ゲームとのコラボイベントは他府県でも実施されているので、参考にできる事例は多いのではと思います。	ご意見は参考にさせていただきます。	—
38		私が子供の頃は、好む好まないに関わらず、色んな年代…ジャンルの芸術、文化に触れる機会が、ありました 現在は、全てが、多様化して、個別化して、好きなものだけの世界になりました。それは、それで仕方ない。 私が子育てしている時代は、地域で、俳句教室、着付け教室、地区文化祭など、盛んでした。伊賀地域の、ホールなどに音楽や、お芝居など、沢山来ていただけるのがありがたいですが、その学年、年代で、理解できる、地元の、文化芸術の触れあう時間、(野外学習みたいな)を継続していくとかあったらいいですね。	ご意見は参考にさせていただきます。	—

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
39	23ページ	第3次総合計画後期基本計画の「公共交通の利便性向上」に関する方針について、以下の点から意見を述べます。** 本計画では、地域内移動の確保や高齢者の外出支援を目的として、バス路線の維持・改善やデマンド交通の活用が示されています。方向性としては妥当であり、人口減少が進む地域において重要な施策であると考えます。しかし、現状の伊賀市内の交通実態を踏まえると、**「高齢者向け施策」と「通勤・通学者向け施策」が十分に両立していない」**点が課題だと感じています。 特に以下の点を改善することで、より実効性の高い交通政策になると考えます。 朝夕のバス本数が少なく、通勤・通学に利用しづらい 現状では自家用車依存が強く、公共交通を選択肢に入れにくい状況が続いています。 本数の少なさが利用者減につながり、さらに減便される悪循環を断つ必要があります。 デマンド交通の予約制が高齢者にとって心理的ハードルになっている スマホ操作や事前予約が苦手な方も多く、利用促進には「予約不要の時間帯」や「電話受付の拡充」など、運用面の改善が求められます。 主要施設（市役所・病院・商業施設）を結ぶ“短距離循環ルート”の検討 高齢者の外出支援だけでなく、買い物や行政手続きの利便性向上にもつながります。 以上の理由から、公共交通施策を「高齢者支援」と「通勤・通学支援」の二軸で整理し、それぞれに最適化した運行計画を検討することを提案します。公共交通の利便性向上は、市民の生活の質を高めるだけでなく、移住促進や地域経済の活性化にも寄与する重要な基盤であると考えます。	ご意見は参考にさせていただきます。	—
40	2ページ	法の視点と市の文化政策のあゆみについては、市は文化振興ビジョンがしっかりしており今後も継続して更に市民に定着させて頂きたい。	ご意見として賜ります。	—
41	3ページ	文化政策の基本となる視点については、「ひと」を育む、「まち」を育むの考えのもと他分野との連携を積極的に推進してください。特に「人権」について、平等に全ての人に権利を与えて頂きたい。	ご意見として賜ります。	—
42	4ページ	文化芸術を守り生かす地域については、伊賀市はこれまでも大変力を入れて来たように感じます。今後も引続き推進をする中で、更に推進できるよう具体的な取組みをお願いします。	ご意見として賜ります。	—
43	7ページ	アンケートによる市民の意識については、結果から見えた課題に対する早期の対策をお願いしたい。	ご意見として賜ります。	—
44	9ページ	4つの基本目標については、大変素晴らしい目標と考えます。是非積極的に取り組んで頂きたい。但し、市民との考えにギャップが生じたら効果も半減します。この点を十分踏まえた取組みをお願いします。	ご意見は参考にさせていただきます。	—

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
45	8ページ	すべての人に/取り組みの視点 のところで、それまで読んできた文章はよくわかるのですが、、文化芸術の振興（イメージ）としてまとめられたものがわかりません。無くても、あるいは無い方がよいと思いました。	「公平・平等」は誰もが文化や芸術に触れる機会をつくること「選択・集中」重要なものや再評価された価値のある活動に絞って、取り組むことです。これらが機能することで、人と人とのつながりを深め、地域やコミュニティをより強くしていきます。みんなが気軽に参加できる環境をつくることが、文化芸術の振興とコミュニティの発展につながる考えます。内容は修正しました。	○
46	25ページ	芭蕉さんと俳句を核として、文化遺産の魅力の発信と都市の文化的な「顔づくり」が、31ページの文化まちづくりプロジェクトへつながるのだなと読んだのですが、それだけに、25ページの取り組み表の4番目「新たな文化芸術の誘導（移入）による都市の新たな顔づくり」がわからなくて違和感を覚えます。どのようなことなのでしょう。	基本方針6-Ⅱは、観光や産業との連携を通じて文化芸術の情報発信を行うものであり、まちの付加価値を高め、伊賀市が持つ文化的な価値を広く伝えるための取り組みを示しています。伊賀市が誇る伝統文化や地域資源に加え、社会情勢の変化を受け入れながら、新しい文化芸術を積極的に導入・誘導することで、市の魅力を多角的に高め、都市の「顔」を刷新し、持続可能な文化都市の実現を目指しています。	—
47	26ページ	施策の方向Ⅰ社会参加のきっかけづくりのところで、「人口減少、少子高齢化、後継者不足などに起因するさまざまな課題に向き合うため」とされていますが、ストレートに「より多くの人に参加できる事業を推進します」だけの方がわかりやすい。	人口減少や少子高齢化により社会参加者が減少していることに対応するため、記載しています。	—
48	29ページ	子ども未来プロジェクトは、大変よくわかり、実行されている事業についても大いに賛同します。是非力を入れて進めていただきたいと思います。	ご意見として賜ります。	—

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
49	32ページ	評価指標についてですが、7つのプラン、それぞれ2つずつの施策。それらの推進を3つの指標で評価するのでしょうか。 指標①は基本方針2に向けられていると思うし、指標②は基本方針1に、指標③は9ページの4つの基本目標の④に向けられていると思いました。よくわかりません。	評価指標の設定は、7つの基本方針それぞれに直接対応しているわけではなく、計画の進行状況を把握し、進んでいるかを判断するためのものです。なお、今後事業展開をする中で適宜見直しをしていきます。	－
50	第1章 文化政策について	伊賀市の文化振興プランについては、難しいことは解りませんが、行政や団体が取組むべき方向性の基本として不易流行としています が、銀座通り西側の拡幅改修は酷いもので、不易流行の大失敗作と思います。 温故知新を無視した基本政策は何をやっても銀座通りの様な滑稽なものになると思います。	ご意見として賜ります。	－
51	22ページ	文化振興ビジョンには、城下町として栄えたこと、街並みが残っていることは記載されているが、このことが基本プランにはない。藤堂高虎が1608年に伊賀へ移封となり、伊賀上野城を築き、城下町づくりを行い、今日の伊賀、名張の基礎を造ったことが示されていない。高虎は、伊州殿と呼ばれた殿様であったことは重要である。 商人のための三筋町、天神社、愛宕神社、寺町の寺院など要塞的な城下町づくりは、今日、そのままの残っている。 この豊かな歴史文化資源の価値は、町を歩けば歩くほど明らかになるので、その保存、活用策を示してほしい。 これらは、14・15ページ、25・26ページにも関わることである。 藤堂本家やその一族が伊賀に残してくれた文化芸術を市民に正しく伝え、発展させ、それを次世代に引き継ぐ役割が我々にあることを具体的に記載してほしい。	先人たちにより遺された文化芸術を継承し、新たな創造につなげることを意図した文言を加筆します。	○
52		彼の大战から戦後80年、私達の祖国日本は、復興からめざましい発展を遂げ、今では世界の先進国に仲間入りし、更に国際社会をリードするまでになりました。経済大国物の豊さは言うまでもないことです。歴史的にもよく言われることは、文明が発展すればその次には、物の豊さの次には心の豊さ、文明の発展にとどまることなく、文化豊かなことこそが、真に豊かな国作りになるのだと思います。国の施策ももちろんのこと、市町村レベルで各地方地方に於いても、多種多様な施策が取り組まれています。今回のテーマは本市に於いても、これまでも更にこれから、様々な取り組みを進めて行こうとされているのだと拝察しました。本市も含めてその地方地方に、伝承や伝統の技が代々受け継がれて来ていると思います。具体的な施策や事業への取り組みを通して、施策の具体化を行い、本市の魅力あふれる豊かなまちづくりを進めて行ってもらいたいと思います。そこで私からのご提案としては、公的な施策は難しい言葉使いが多く、市民には馴染みにくい側面も感じられるので、誰にでもわかりやすい表現で、より具体的に発信していただければ、と思います。既に届いている二つ目のテーマでは、私も具体的にいくつかの施策や取り組みをご提案をさせていただこうと思っています。よろしくお願いします。以下同様にQ3に、全て集約させていただきました。よろしくお願いいたします。	ご意見として賜ります。	－
53	21ページ	旧市庁舎は素人目で見ても、素晴らしい建築物だと思います。 保存はもちろんですが、より対外的に露出度、プロモーションを強化し、市外、県外からも多くの人を呼び込める施設になるような施策検討をお願いします。	ご意見として賜ります。	－

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
54	25ページ	都市イメージ向上のための施策強化案の検討。 関東出身ですが、伊賀といえば忍者のイメージはありますが、松尾芭蕉が伊賀生誕であることは、恥ずかしながら転居して初めて知りました。 生誕●●年のタイミング等を生かし、大手キー局などとコラボも面白いと思いました。 知名度が上がることで子供たちが地元愛着・誇りを持つきっかけになればベストですし、移住者を確保できるような受け皿も拡充すればあらゆる面で可能性がある都市だと思います。（松尾芭蕉の大河ドラマがあれば見るなど個人的に思ってます。）	ご意見として賜ります。	—
55	31ページ	前述ですが、都市ブランディングの強化を検討いただければ幸いです。 子どもたちを含めた中からの都市振興、市外県外などの外部ファクターによる都市振興の両輪が大事かと思います。	文化振興を推進・維持するうえで、都市文化と市民文化の強化は必要不可欠です。注力に偏りが生じないよう取り組みます。	—
56	7ページ各事業	伊賀市が目指す方向性としては良いものと考えます。計画された方、各事業を実行されている方には感謝申し上げます。 私は、各事業の内容がどんな内容なのかわかっていませんし、参加者数や、参加者の感想などもわかっていませんが、個別事業の成果、費用対効果など検証結果はどうでしょうか？。 前期アンケートの結果 子どもよりも親が文化芸術に興味を抱かない。 ・参加をしたくても経済的に余裕はなく、部活動や塾の送迎もあり時間はない。 ・子どもたちに文化芸術を分かりやすく、関心をもってもらえるように伝える人材が必要である。 ・文化芸術は敷居が高い。楽器に触れる、絵具や粘土などさまざまな素材に触れる機会は、きっかけづくりになる。 ・参加者は関係者が多く、幅広い世代や家族、友人同士の参加が少ない。 各事業は過去から守り続けている大切なものと思いますが、前期アンケート結果を踏まえまずは、参加者を増やす、興味を持たせる、特に若者世代の参加が必要と思います。 また、個別検証結果より選択と集中で、事業を見直し、活性化する必要があるかもしれません。 例えば、伊賀フェス的なものを企画し、音楽、ダンスステージ、俳句イベントステージ、郷土文化ショー&トーク、キッチンカー、郷土名物販売、アピールする事業のワークショップや、ブースによる展示など、お金はかかりますが、既存事業の選択と集中からの捻出、企業スポンサー、市財政などから予算化。伊賀市に住むものとして、郷土文化が守られて継承されることは大切です。一方で、若者人口流出が加速しています。地元に残る楽しさ、生活のしやすさなどがある郷土を作り、流出を食い止めていかないと文化も守っていきません。手段を変えてみるのもいかがでしょうか？	ご意見として賜ります。	—
57	12ページ	文化ホールや市民センターの記載があり、その中で災害時において避難場所として使用するとの記載があります。 現在の各施設は耐震構造に問題はないのでしょうか？ また一部施設では壁面のひび割れ等の劣化が見られる箇所もあるので、予算をとって補修をするべきではないでしょうか。	指定避難所は耐震構造を備えています。安全確保につきましては担当課において管理していきます。	—
58	14ページ	誰もが文化芸術に触れ合える機会の創出の項で、市民、地域、事業者では運営が難しい場合もあるので、行政が積極的に参加する等を検討した方がよいのでは。	文化芸術を振興するため、行政としても役割を果たしていきます。	—

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
59	第2章プラン作成について アンケート結果	文化芸術に関する習い事をしている子供の割合が高い一方で、中学生では、文化芸術を体験する機会があまりないと回答する割合が高い。という事から思い出したことがあります。 過去に教師をしていた人がすごく感動したという俳句を送ってくれました。私もすごく感動しました。その時に伊賀は松尾芭蕉の生誕の地であることも知ったのですが、その後、仕事で伊賀に来るまで松尾芭蕉の事はすっかり忘れていました。でも、俳句はずっと覚えています。超有名人の松尾芭蕉より生徒の俳句のほうがインパクトがあったということでしょうか。なにかこのへんにヒントがありそうな気がします。	ご意見として賜ります。	—
60	第4章基本方針6観光、産業との連携による文化芸術の全国発信	連休中にNHKのテレビで 日本ユニークな高級ホテル という番組がありました。 1 愛媛県大洲市の大州城をまるごとホテルにして、城主になって宿泊する。 2 奈良県の古墳をそのままホテル仕様にしたもの。 3 明治、大正の文化財建物をホテルに改修。 4 廃校ホテル 5 酒造り体験ホテル など、様々なホテルが紹介されていました。 伊賀で考えると武家屋敷、忍者付き旅館 プラス 茶室スペースで俳句を詠んでいただくというのはどうでしょうか	ご意見として賜ります。	—
61	12ページ	4.主要な施設の位置づけの地区市民センターなどについて 地区の広報をみていると地区市民センターで文化活動をしている世代に偏りがあるように見える。生産年齢人口に該当する世代に対しても自然と文化活動に参加できる工夫が必要。	29番の回答を参照してください。	—
62	22ページ	郷土の文化を知り市民の財産として分かち合うということについて、私の幼少期（平成18年頃）には上野天神祭のカードゲームがあり、だんじり会館で遊んだ記憶がある。郷土の文化を楽しみながら学び、地域に誇りを持つというのはこういった些細なことの積み重ねだと思う。	ご意見として賜ります。	—
63	36ページ	基本計画④ 「芭蕉翁の検証および伊賀市の歴史や文化芸術に触れることができる施設の整備」の主体等については、文化振興課のみではなく、多くの歴史資料（史料）は文化財であり、建造物も歴史的な文化的景観の構成要素である点から、文化財課および建築物の所管課にも主体的に担当していただいたほうが良いと思います。観光の視点や国土強靱化の観点からも、古地図類のデジタルアーカイブの活用と埋蔵文化財の確認調査の実施により、より安全な施設整備ができるのではないかと思います。	ご意見として賜ります。	—

	掲載ページ	ご意見(記載のまま)	市の考え	計画への 反映
64	37ページ	「デジタルミュージアム 秘蔵の国 伊賀」について、持続可能なコンテンツとしていくために、CCBY4.0の採用も一部ご検討ください。また、埋蔵文化財の情報は他のデジタルアーカイブも併用利用することも視野に検討してください。	令和８年度より芭蕉関係資料においては採用します。	—
65	8ページ	文化芸術の振興（イメージ）の図については少し図が見つらいと感じた。文字が横書き長文で記載してあり、内容理解が難しい。もう少し、短い文字数でまとめてほしい。色付けや図で囲むなど、デザインをもう少し工夫すると見えやすいと考える。9ページの図のよ うな図のように簡潔にまとめると理解もしやすい。	ご意見のとおり、分かりにくいため修正します。	○
66	9ジ～11ページ	9ページから11ページの図については、色分け、矢印等工夫がされており見やすかった。	ご意見として賜ります。	—
67	13～27ページ	13ページから27ページの施策推進の図式化については、見やすい内容であった。取り組みの主体、様態等が図式化され見やすかった。表を提示する事で、一目で理解がしやすくなり、他との比較もし易くなった。SDGsの視点を掲載する事により、SDGsのどの要素があるか意識することで、掲載されたSDGsの視点を達成しようと思えた。	ご意見として賜ります。	—
68	28ページ	28ページの子どもの成長に文化芸術の重要性があるという内容に理解が出来た。子どもは成長の過程で文化芸術など幅広い視野に関わることが重要だと考える。下記には子どもだけではなく、高齢者も働く人も全ての人に文化芸術と関わることのできるような取り組みも記載している所が素敵だなと思った。	ご意見として賜ります。	—
69	32ページ	評価指標を掲載する事については目標を掲げ、目標達成に大きな役割を果たすと考えた。目標を提示する事で意識が高まり、皆の士気が上がると感じた。以前の数値を掲載する事により、数値の変化や現状が把握しやすくなったと考えた。	ご意見として賜ります。	—
70		とてもいい案だと思います	ご意見として賜ります。	—
71		賛同いたします。	ご意見として賜ります。	—